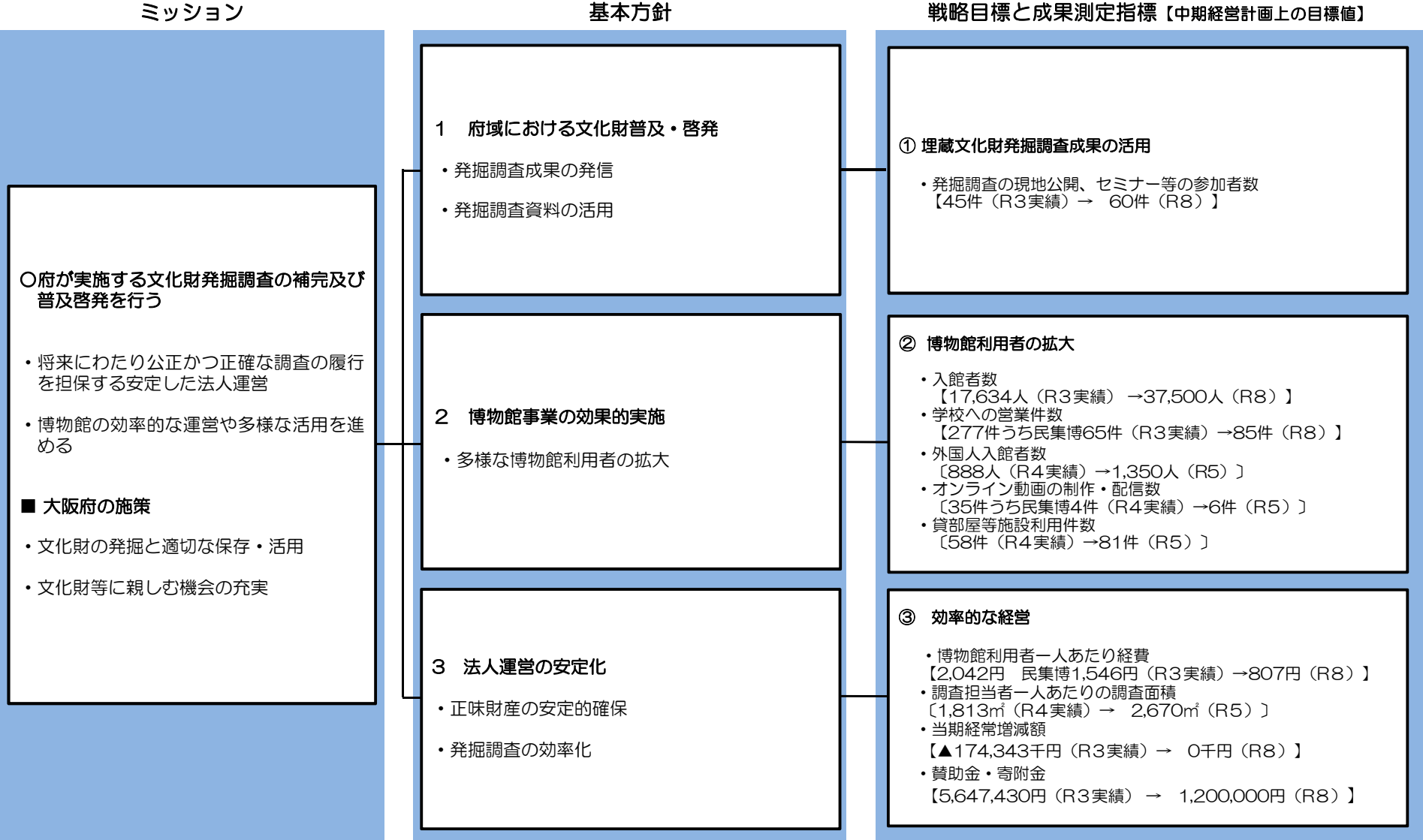


法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
作成 (所管課)	文化財保護課

〇 経営目標設定の考え方



○ 令和4年度の経営目標達成状況及び令和5年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値 [見込値]	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画 (R4~R8)		R5目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R5 目標値	最終年度 目標値	
① 埋蔵文化財発掘調査成果の活用	発掘調査の現地公開・セミナー等の実施件数		件	35	(45)	48	48	51	40	51	60	中期経営計画による。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>当法人では、令和4年度に策定した中期経営計画のビジョンとして、以下の3本柱を設定している。</p> <p>①【文化財を後世に】⇒ 遺跡の発掘から歴史の解明 ②【文化財を身近に】⇒ 地域の歴史学習への寄与 ③【文化財で心を豊かに】⇒ 「温故知新」で文化力向上</p> <p>具体的には、①「高質な発掘調査を継続して実施し、開発によって失われる遺跡の正確な記録を残す」、②「文化財資料活用事業や博物館管理運営事業を通して、府民や明日を担う子ども達に文化財の大切さや魅力を具体的に伝える」、③「文化財を通して、先人の知恵と工夫を学び、これを府民に伝える」ことを目指している。</p> <p>人口減少社会の到来が現実となる中、平成31年4月に施行された改正文化財保護法では、これからの文化財保護行政は、従来までの保存重視から保存と活用を一体的に推し進め、地域社会全体で文化財を次世代に継承していくための取り組みを行う必要があることが強く打ち出され、地域固有の文化財を通じて、住民が地域に愛着や誇りを見出し、個性的で活力のあるまちづくりに寄与することが期待されている。当法人が約半世紀にわたって手掛け、蓄積してきた埋蔵文化財の調査成果は、府民にとって大切な地中に埋もれた地域資源であり、これを府民に伝えていくことは、当法人の大きな使命の一つであると考えている。</p>											
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>課題：発掘調査現場の現地公開では、タイトな調査期間の中で、その準備に関して十分な時間を費やすことが困難となることも多い。 コロナ禍を経験し、府民の発掘調査情報を得る手段が多様化している。</p> <p>改善点：現地説明会などの開催が困難な場合においては、ドローンによる空中撮影や測量データから得た3D画像など臨場感のある動画を加え、制作し、YouTubeを活用してホームページ上でWeb現地説明会を開催する等、ウィズコロナ時代を見据えた新しい文化財資料活用事業のあり方を確立する。</p>											
活動方針	<p>・府内自治体や民間企業等の関連団体との連携をさらに強固なものとし、当法人が培ってきた企画力と専門分野の知識をもつ豊富な人材、民間企業がもつ広報力とネットワークを相互に活用し、Win-Winの関係で事業を進める。</p> <p>・大阪府内の博物館施設等で実施する展示事業等を通して地域の文化財の周知に寄与する。</p> <p>・府民が情報を得る手段の多様化に対応し、インターネットでの動画配信等これまでの方法とは異なる手法で発掘調査成果等の情報発信を行う。</p> <p>・令和元年度に世界文化遺産に登録された『百舌鳥・古市古墳群』について、府民の興味・関心を一層呼び起こし、世界にも認められた普遍的価値への理解が深まるよう、大阪府や関連自治体と連携する。</p>											
										<p>発掘調査現場の現地公開の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地説明会の開催 ・地域住民を対象とした現地公開の実施 ・地元学校の見学受け入れ ・HPやSNSを活用した発掘調査成果の発信 <p>発掘調査資料の活用・公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府内自治体や府立博物館と連携した速報展示や講演会等の実施 ・泉佐野市立歴史館いずみさの(指定管理)における展示企画での積極的活用 <p>学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発掘現場への近隣小学校の見学誘致 ・高校生の考古学体験の受け入れ ・大学との連携による考古学関連の講義 <p>民間企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近鉄文化サロンと連携した連続講演会を実施 <p>多様なニーズに合わせた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページなどによる情報発信機能の充実 ・YouTube等による動画配信 ・SNSを活用した情報発信 ・報道提供によるマスメディアによる情報発信 <p>百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府施策への協力 		

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値 〔見込値〕	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画 (R4~R8)		R5目標設定の考え方 (数値の補換) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項	
										R5 目標値	最終年度 目標値			
②博物館利用者の拡大	日本民家集落博物館入館者数		人	8	17,634	23,500	26,110	27,000	8	27,000	37,500	R4年度実績ならびに中期経営計画による最終年度目標値を踏まえて設定	館内における四季折々の花々の開花状況やイベントの開催状況、展示民家や民具に関連する情報を様々な媒体で発信し、博物館の魅力を広く周知	
	学校への営業件数(プロセス)		件	3	277 (うち民集博65)	250	286 (うち民集博77)	↓80	8	70	85	R4年度の日本民家集落博物館の実績ならびに中期経営計画による最終年度目標値を踏まえて設定	・学校訪問による継続的な誘致活動の実施 ・現場教師を対象とした博物館体験プログラム等の説明による利用促進	
	外国人入館者数	☆	人	—	(269)	—	(888)	1,350	4	—	—	R4年度の実績ならびにコロナ禍以前の実績を踏まえ設定	・旅行会社や宿泊施設への外国語表記の博物館案内提供	
	オンライン動画の制作・配信数		件	5	25 (うち民集博4)	26	35 (うち民集博4)	↓6	8	—	—	R4年度の日本民家集落博物館の実績を踏まえ設定	・展示民家の解説動画など、オンラインを活用して博物館の情報を効果的に発信することで、博物館の魅力を高め、来館意欲を喚起	
	貸部屋等施設利用数	☆	件	—	(38)	—	(58)	81	4	—	—	R4年度の実績ならびにコロナ禍以前の実績を踏まえ設定	・展示民家を句会、展示会、撮影会等の会場として、貸出利用を広く発信することで、博物館の魅力を広く周知し、活用を促進	
	i 弥生文化博物館		人	8	14,794	19,000	×15,249	—	—	—	—	—	—	—
ii 近つ飛鳥博物館		人	8	60,885	75,500	×72,663	—	—	—	—	—	—	—	—
×「出かける博物館」事業の活性化	館外事業の参加者数		人	5	48,654	50,500	94,579	—	—	—	—	—	—	—

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

③	効率的な経営 (博物館事業の効果的実施)	利用者一人あたり経費 (事業費/利用者数)	円	4	2,042 (民集博1,546)	1,691	[1,375] (民集博1,068)	866	4	1,153	807	R5年度の日本民家集落博物館の当初予算事業費ならびに目標入館者数を踏まえて設定	・ホームページ・SNSなどインターネットによる情報発信を強化し、新たな来館者層の開拓を行う
	(効率的経営の推進)	埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積	m ²	10	3,160	2,230	×1,813	2,670	10	—	—	R5年度予定事業を踏まえて設定	・若手職員への発掘調査技術の継承を確実に行うとともに、支援業者が有する測量技術などを活用しながら効率的に調査を遂行
	(安定的財基盤の確立)	当期経常増減額	千円	10	▲174,343	▲130,487	[×▲168,412]	▲48,117	10	▲34,109	0	中部調査事務所撤去に伴う解体設計費、本部事務所改装にかかる設計費・改修費等を目標値とすることで、実質的な収支相償を目指す	・埋蔵文化財発掘調査の事業確保に加え、日本民家集落博物館事業において、来館者・施設利用者の増加を図り、収支相償を目指す
	(民家集落博物館展示民家保存修理のための自主財源の確保)	賛助金・寄附金	円	4	5,647,430	1,200,000	[1,206,939]	1,210,000	4	1,200,000	1,200,000	R4年度実績および中期経営計画を踏まえて設定	・コロナ禍の影響により、企業等からの賛助金の休止・減額が続くなかにおいて、広報活動を進め、賛助金の提供再開・増額を働きかける

【凡例】
 ・☆はR5年度からの新規項目
 ・×は目標値未達成
 ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人 大阪府文化財センター

CS調査の実施概要

○令和4年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
①弥生文化博物館利用者CS満足度調査 ②近つ飛鳥博物館利用者CS満足度調査 ③日本民家集落博物館利用者CS満足度調査 ④発掘調査遺跡現地公開参加者CS満足度調査	①弥生文化博物館利用者へのアンケート ②近つ飛鳥博物館利用者へのアンケート ③日本民家集落博物館利用者へのアンケート ④発掘調査遺跡現地公開参加者へのアンケート	①弥生文化博物館の来館者 ②近つ飛鳥博物館特別展等の展覧会期間の来館者 ③日本民家集落博物館の来館者 ④発掘調査遺跡現地公開開催時の来場者	①121名 ②303名 ③408名 ④73名	①通年 ②通年 ③秋季期間（年1回） ④3月18日実施（年1回）

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>①講演会等における机の使用要望、解説動画のさらなる充実等。</p> <p>②展覧会での展示品の個人使用撮影についての要望等。</p> <p>③展示民家のみならず、四季折々の花々を含めた空間や清掃、職員やボランティアの丁寧な対応等に対して高評価。養生シートや段ボールなどメンテナンス用具を見隠しする要望等。</p> <p>④出土品実物を間近でみる事ができたこと、具体的な話を自由に聞けたこと等丁寧な対応に対して高評価。複数回の全体説明の実施や、より詳細な説明の要望等。</p>	<p>（結果を踏まえ実施した取組）</p> <p>①講演会の際に、会場ホール内に机付き椅子を新規導入。メモを取り易くして、参加者の利便性を向上させた。常設展・特別展の解説動画を、回数、内容ともに充実させ、facebook等においても詳しい告知を心掛けた。</p> <p>②展示品の借用交渉段階から、所蔵者に協力を依頼し、秋季企画展では、全ての所蔵者の協力を得ることができ、撮影可とした。</p> <p>③引き続き、園内の整備・清掃を進め、心地よい空間を創出。メンテナンス用具等の整頓に努めた。</p> <p>④年度未実施のため、実施を踏まえた取組は未実施。</p> <p>（今後実施予定の取組）</p> <p>①弥生文化博物館事業はR4年度末、指定管理期間満了。（調査結果については、大阪府を通じて新指定管理者へ提供。）</p> <p>②近つ飛鳥博物館事業はR4年度末、指定管理期間満了。（調査結果については、大阪府を通じて新指定管理者へ提供。）</p> <p>③来館者へのホスピタリティーの向上。快適空間の維持。</p> <p>④全体説明の複数回実施。自由に質問できる職員の配置。</p>

○令和5年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
①日本民家集落博物館利用者CS満足度調査 ②発掘調査遺跡現地公開参加者CS満足度調査	①日本民家集落博物館利用者へのアンケート ②発掘調査遺跡現地公開参加者へのアンケート	①日本民家集落博物館の来館者 ②発掘調査遺跡現地公開開催時の来場者	①約400名 ②約200名	①秋季期間 ②現地公開開催時（年2回）

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

[1]

成果測定指標	単位	R4年度目標値	R4年度実績値	目標値との差
弥生文化博物館入館者数	人	19,000	15,249	△ 3,751

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応	
①	小中学校団体来館者の減少			<ul style="list-style-type: none"> 小中学校団体の校外学習等の来館について、H29年度からR1年度の過去3か年度実績（4～9月）平均約6,000人を想定していたが、依頼が減少し、2,635人に留まった。 下記想定値はH29年度からR1年度の過去3か年度（コロナ禍以前）実績（4～9月）に基づいて算出。 						弥生文化博物館事業はR4年度末において指定管理期間満了。	
	関連項目名	入館者数	単位	人	R4当初想定値	6,000	R4実績値	2,635	差		
②											
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差		
③											
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差		

■ 目標値未達成の要因について

[2]

成果測定指標	単位	R 4 年度目標値	R 4 年度実績値	目標値との差
近つ飛鳥博物館入館者数	人	75,500	72,663	△ 2,837

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応	
①	夏季特別展入館者の減少			・8~9月にかけて実施する展覧会の入館者数を13,500人程度見込んでいたが、実際の入館者数は3割減となった。 ・下記想定値はH29年度からR1年度の過去3か年（コロナ禍以前）実績に基づいて算出。						近つ飛鳥博物館事業はR4年度末において指定管理期間満了。	
	関連項目名	入館者数	単位	人	R4当初想定値	13,500	R4実績値	9,405	差		
②											
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差		
③											
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差		

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

[3]

成果測定指標	単位	R4年度目標値	R4年度実績値	目標値との差
埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積	m ²	2,230	1,813	△ 417

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	事業者側の規模縮小や遅延			<ul style="list-style-type: none"> 事業者側の計画変更に伴う調査面積減や調査着手遅延による調査面積減のため。 下記想定値は目標設定時の調査面積と人員貼り付け計画に基づいて算出。 						令和5年度に予定されている事業に対し事業者と綿密な進捗協議を行い、調査面積減を防ぐと共に新規事業については柔軟な人員配置により対応する。
	関連項目名	調査面積	単位	m	R4当初想定値	2,198	R4実績値	1,813	差	
②										
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差	
③										
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

[4]

成果測定指標	単位	R4年度目標値	R4年度実績値	目標値との差
当期経常増減額	千円	△ 130,487	〔△168,412〕	〔△37,925〕

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応
①	埋蔵文化財調査事業の事業収益の減少および事業費の増加			事業者側の規模縮小や遅延に加え、年度下半期にかけて、受託事業量の上積みを図ることができず、受託事業収入が伸び悩んだため（約△30,000千円）。光熱水費の高騰により当初の想定より約1,200千円の費用増加。					令和5年度より当該事業部門の人員を拡充し、より多くの事業を受託する予定であることに加え、新規事業についても、柔軟な人員配置により対応する。
	関連項目名	当期経常増減額	単位	千円	R4当初想定値	△130,487	R4実績値	〔△162,657〕	
②	日本民家集落博物館事業の事業収入不足による借入金の発生			入館料等の事業収入不足のために他会計からの借入金が生じたため。					ホームページ・SNS・動画配信等を通じて博物館の存在と魅力を広くPRし、認知度を高める。学校団体への直接的な誘致活動を実施する。来館者および施設利用者の増加を図ることにより、事業会計内の収支相償を目指す。
	関連項目名	当期経常増減額	単位	千円	R4当初想定値	0	R4実績値	〔△7,010〕	
③									
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔1〕

●変更前

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
弥生文化博物館入館者 数	人	19,000

●変更後

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
—	—	—

成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由	弥生文化博物館の指定管理者事業がR4年度末において終了したため、廃止とする。
------------------------------	--

〔2〕

●変更前

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
近つ飛鳥博物館入館者 数	人	75,500

●変更後

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
—	—	—

成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由	近つ飛鳥博物館の指定管理者事業がR4年度末において終了したため、廃止とする。
------------------------------	--

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔3〕

●変更前

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
館外事業の参加者数	人	50,500

●変更後

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
—	—	—

成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由	弥生文化博物館および近つ飛鳥博物館にかかる成果測定指標であり、両館の指定管理者事業がR4年度末において終了したため、廃止とする。
------------------------------	--

〔4〕

●変更前

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
/		

●変更後

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
/		

成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由	/
------------------------------	---

■ 令和4年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
学校への営業件数 (プロセス)	件	286	80

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館、日本民家集落博物館の3館を合計した指標であったが、R4年度末をもって、弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館の事業が終了したことから、R5年度は日本民家集落博物館のみの数値を指標とするため。 日本民家集落博物館のR3年度実績は65件、R4年度実績は77件である。</p>
--	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
オンライン動画の制作・配信数	件	35	6

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館、日本民家集落博物館の3館を合計した指標であったが、R4年度末をもって、弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館の事業が終了したことから、R5年度は日本民家集落博物館のみの数値を指標とするため。 日本民家集落博物館のR3年度実績は4件、R4年度実績は4件である。</p>
--	---